
独占

村崎 駒数

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

独占

【Nコード】

N1678M

【作者名】

村崎 駒数

【あらすじ】

恋した人が死んでゆく。少年はそのなかで、あるものを求めるようになった。

僕の初恋は小学校の3年生だったな。

長い黒髪がかわいい子だった。

けど、交通事故で死んじゃったんだ。

もう、10年近く前の話だけだね。

その子が死んだショックからしばらく立ち直れなかった。

でも、1年ほど経った頃、また素敵な子が現れたんだ。

転校してきた子で、活発な子だった。

僕は勇気を出して、川と一緒に遊びに行っただ。

とても楽しかったよ、彼女が溺れちゃうまでは。

大人を呼んでくるのに時間がかかって、また死んじゃったんだ。

それから、中学に入るまで人を好きになれなかった。

また死んじゃうと思っていたから。

でも、中学2年になったとき、クラスが一緒になった子が好きになったんだ。

今までは一目惚れだったけど、このときはそうじゃなかった。

2ヶ月ぐらい、同じクラスにいて、とても大人しい子だ。

けれど誰よりも優しい子だと知って好きになったんだ。

でも、僕は呪われてた。

その子は、自殺しちゃったんだ。

いじめられてて、耐えられなかったんだって。

遺書が僕宛に見つかって、そのことを知った。

僕は心を閉ざそうとしていた。

でも僕は気づいたんだ。

自分の独占欲が強くなっていること。

それが、彼女たちの死によって満たされていること。

僕はとうぜん苦しんだよ。

人が死んでるのに、それで自分の欲求を満たしていたんだ。

罪悪感に押しつぶされそうになった。

僕は押さえようとした。

けど、人の欲求は強く、しつこく、終わりが無い。

手に入れば入れるほど、次が欲しくなる。

僕は人を好きにならないよう、人との関わりを捨てようとした。

でもそんな僕に、また誰かが優しくしてくれる。

普段、人と関わらないと少しの優しさに恋をしてしまう。

そして、その子を、その優しさを自分だけのものにしたいくなる。

他人に触れさせないためには、そうするしかなかった。

そうすれば、彼女は永遠に僕のものだ。

そんなことを何度繰り返したんだろう。

でも僕はもう終わりにしたい。

だから、僕は20歳で死のうと思っていた。

それまで、人の優しさに触れないようにしようと思っていた。

それなのに、君が現れた。

僕に手をさしのべた。

僕の独占欲は、自分の死を前にして、共に逝くものを探していたんだ。

君は誰にも渡さない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1678m/>

独占

2010年10月9日23時28分発行